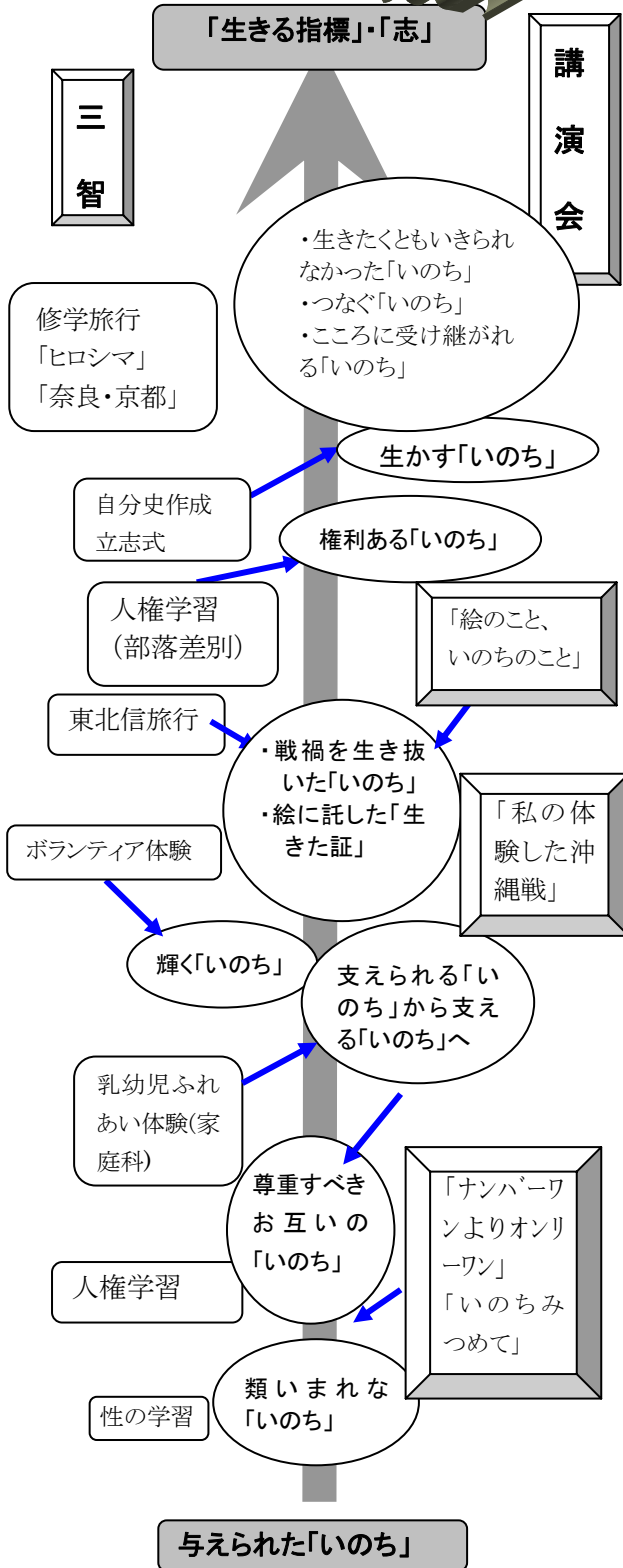


いのちの学習実践報告

大桑中学校 3 学年



いのちの学習のめざし



これまでの主な実践

【1 学年】

性教育『類まれないのち』

いのちの旅の始まりについて学び、自分自身の誕生を振り返った。驚くべき奇跡の連続があったからこそ、この世に二つとない、類まれな命として誕生したことを学んだ。

ボランティア体験『輝くいのち』

「ありがとう」の一言がとてもうれしく、心に響き、がんばる勇気をもたらすことができました。そして、お年寄りが未熟な私たち



を期待に満ちた優しいまなざしで見つめてくれていることに気づき、長い人生経験から得た知恵に感動し、自らがかつて歩んできた道を今歩んでいる私たちへの暖かい気持ちを感じ取ることができた。私たちとは違ったいのちの輝きを学んだ。

【2 学年】

東北信旅行 5月

《無言館見学》

ねらい：限りあるいのちを輝かせ、生きた証をこの世に残した画学生の生き方にふれ「命の有限性」を認識し、いのちの生かし方を考えることができる。

生徒の問い『絵に託した生きた証』

(生徒の感想より)

【画学生の生き方に共感し、自分の生き方を考える姿】

無言館に着いて入り口に入った瞬間さっきまでしゃべっていたみんなが黙りました。…絵を見ていると自分の生まれた町や家族の絵がとても多かったです。あと少しでなくなるかもしれない人生を大好きな町や家族を描いて過ごしたいという気持ちがとてもよくわかりました。…画学生は最後まで絵を描いていたと思います。そこでなぜか「今という時間は今しかない」という言葉が浮かんできました。画学生は今しかない今、一生懸命絵を描きました。自分も悔いのないように今を一生懸命に生活しようと思いました。

- 考察：**
- ・ 生きた証を絵に託した画学生の思いを捉えようとする心情の育ち
 - ・ 限りあるいのちを最大限に輝かせようとする生き方への気づき

《松代大本営見学》

ねらい： 理不尽に虐げられた朝鮮の人々の生活を知ることを通して「逆境を耐え抜きたいのち」を認識し、戦禍を生き抜いた朝鮮の人々の思いを考えることができる。

生徒の問い【戦禍を生き抜きたいのち、何がそうさせたのか】

(生徒の感想より)

【朝鮮人労働者の思いを想像し、生き抜きたいのちについて考えを深めた姿】

強制労働させられていた朝鮮の人々は、「逃げたくても逃げられない、家族に会いたい」という気持ちでいっぱいだったと思います。さらに、毎日過酷なことをやらされていた。だけど、家に帰るために逃げずにがんばってつらいことをのりきったんだと思います。だから、僕も決して家族を悲しませるようなことはしないで、命を大切にしようと思いました。



- 考察：**
- ・ 生きる支えとなった故郷や家族への思いを捉えようとする心情の育ち
 - ・ 窪島さんの講演会の内容と関連させ、自分には友人や家族がいること、自分がしたいことができることの幸せを再認識し、自らの生き方につなげていく姿

職場体験 8月

ねらい： 働くことの意義や喜び、厳しさを知り、職業感を高めるとともに、自身の進路について考えを深めることができる。

生徒の問い【働くことの厳しさ、責任感とは】



(生徒の感想より)

【仕事への責任感と自身の進路について考えを深めた姿】

保育士の方々は、園児の少しの変化だって見落とすことがなく、いつも園児のことをちゃんと見ているんだなあと思ひ尊敬しました。…「保育士の仕事は、子供を預かるのと同時に子供の命を預かっていることになる」と保育士の方が言っていて、私にはその言葉の重さはまだよくわからないけど、きっとすごく大変なんだろうなあと思いました。私は、2日間保育士の方々の働いている所を見たり、体験してみたりして、この仕事はすごく大変な仕事だと思うけどその分やりがいはあるだろうなあと思ひ、将来の夢になりました。帰るとき一人の男の子に抱きつかれて「おねーちゃん大好き」と言われたときはすっごううれしくて感動しました。この喜びを毎日味わいたいなあと思ひました。

- 考察：**
- ・ 自分が社会人、職業人として次代を担うという意識の転換、自覚の育ちが見られる。
 - ・ やりがいや生きがい、責任感を見出したことにより、自身の進路について考えを深めることができた。

乳幼児ふれあい体験 10月

ねらい： 乳幼児とのふれあいを通して、いのちの温かさ、ぬくもりを直接体験し、いのちの尊さを実感する。

生徒の問い【支えるいのち】

(生徒の感想より)

【支えるいのちについて考えを深めた姿】

支えられる、守られる立場だった私たちが、これからは支え、守りぬく立場になることを考えました。小さい命を守るのは親や家族だから、将来子どもが生まれたら自分が強くなれないといけないと思ひました。



考察：・小さな頃の自分と重ね合わせ、自分の成長を実感するとともに、改めて親への感謝の思いを持つことができた。

・支えられてきたいのちから今後、いのちを支える立場となることを自覚することができた。

立志式 1月

ねらい：これまでの「いのちの学習」のふり返りを通して自己を見つめなおし、今後の生きる指標をたて、自己の意志表明の場とする。

生徒の問い【自分のいのちを生かす（輝かす）】



(自分史より)

【これまでのいのちの学習をもとに、立志の言葉を見出した姿】

私は立志の言葉を「感謝～ありがとう～」と決めました。この言葉には、これから「感謝の気持ちを忘れずに生活して、自分も他人も幸せにできる人間になりたい」という意味がこめられています。

この言葉に決定した理由は、以前体験させてもらった**ボランティア体験、窪島さん、川田さんの講演会**がきっかけでした。

ボランティア体験では「ありがとう」というたった一言で幸せになれることや人が笑顔になれることを知りました。体が不自由でもゆっくりでしか話せなかったり聞けなかったりしても精一杯一日一日を生き続けているおじいちゃんおばあちゃんたちの姿がありました。**ボランティア体験で私は「自分たちとは違ういのち」を知れた**気がしました。おじいちゃん、おばあちゃんたちに「ありがとう」と言ってもらえて胸が温かくなりました。

窪島さんの講演会では「**自分が幸せに慣れてしまうとその幸せがあたりまえになってしまい、小さな幸せも何も感じなくなってしまう**」「**大好きな人のために勉強している**」ということを学びました。今、私に友達がいること、家族がいること、自分のしたいことができる、大好きな人がいることなど、それぞれすべてが幸せであることに気がつきました。この幸せが普通になってしまったらダメだと思うので今ある幸せをもっともっと大切に考えていきたいです。そして、「みんな平等に真っ白なスケッチブックを持っていてそのスケッチブックにいつか出会う大好きな人、最愛の人を描くために生きている」という窪島さんの言葉が今でも胸に残っています。

川田さんの講演会では「**自分と同じように他人も大切で、人間は決して一人ではありません**」という言葉に**心が温かく、そしてやさしくなれた気がします**。川田さんはHIVに感染していることを彼女と親友に言ったら「HIVだからって嫌いにならないよ」「昨日のお前と今日のお前と区別しない。いつもどおりに付き合うぜ。」と言ってもらったから幸せだなと思いました。

今の日本には、人を傷つけてしまう心の黒い人たちがたくさんいるけれど、こんなにいい人がいるんだな。とも思いました。もっと優しい人間が増えたら日本も世界も変わっていけると思います。人間と人間が争ってまた一人世界で大切ないのちが消えてしまっているのかもしれない。

以上、三つの体験をして「生きる」ことの大切さ、生きている意味を知ることができました。……

考察：・これまでの学習から、様々な「いのちのかたち（あり方）」を学び、そこから生きる指標を見出し、自分の生き方につなげていくことができた。

・一人一人が生きる指標を明確に意思表示できた。（表現力の高まり）

・「跳躍」という志を立てたT生は、陸上で6m跳ぶことを目指し、日々練習に励むとともに、人としても跳躍できるようにと周りの誘惑に負けず目標を持って取り組む努力をしている。

【3学年】

修学旅行 4.5月

《ヒロシマ》

ねらい：「今を平和に生きる幸せ」「平和とは何か」「平和に生きるためになすべきことは何か」について考えを持つことがで



きる。

生徒の問い【広島での学びをもとにわたしがどう生きていくか】

(生徒の感想より)

【平和に生きるためになすべきことを考える姿】

渡辺さんのお話を聞いて思ったことは、何の罪もない人たちがたくさん被害にあってしまっていてかわいそうだった。自分がけがをしても周りの人もけがをしているから誰も助けてくれないし、大切な人をなくした人もいるし、だから原爆は悲しみや苦しみをうむだけのものだったと思いました。私は、目を背けても変わらない過去はあるけれど、変えられない未来はないと思うので、今回の修学旅行で見たこと、聞いたことをしっかりと伝えていける人になりたいです。そして、人の痛みを自分の痛みとして考えて、戦争のない未来にしたいです。・・・今回の修学旅行で広島に行ってきた、今までは命の誕生や命について学んできたけど3年になって「うばわれてしまった命」を学び、新たな内容でより命について深く考えることができた。・・・

考察：・被爆の事実を「心を背けずに」見て捉えようとする心情の育ちがみられた。

- ・被爆を単なる歴史事実や遠くの出来事としてではなく、自分の問題として捉え、考えることができた。
- ・語り部からのメッセージ「人の痛みを自分の痛みとして考えられる人になってほしい」を真摯に受け止め、それを平和に生きるためになすべきこととして、自らの生き方につなげていくことができた。
- ・清水寺の買い物では、誰と行動したらよいか不安そうな仲間に声をかけて行動をともにしようとするN生の姿から、他を思いやる心の育ちを感じた。

《京都・奈良》

ねらい：・すばらしい文化を創ってきた人々の上に自分たちがいる、という命のつながりを感じることができ
る。
・歴史的文化遺産から感じ取ったことを自らの生き方・考え方と重ね合わせるにより、生活様式、道徳観のルーツがその中に存在することに気づく。

生徒の問い【日本文化から学ぶ生き方・考え方】



(生徒の感想より)

【日本文化を見直し、受け継ぐ意欲を高めた姿】

日本の文化は、昔から伝統的なもので、たたみやふすまなどがあるけど、それが今の日本になくなってきていてさみしい感じがした。日本には、日本独特の文化、他の国には他の国独特の文化があり、その文化を尊重していきたいと思いました。そして、日本独特の文化を他の国の人に、すごいところを教えていけるような人になっていきたいと思いました。

(生徒の感想より)

【日本文化の魅力に引き込まれた姿】

阿修羅像の本物を見たとき、なぜか阿修羅像のある場所で10分ほど見入ってしまいました。一時間くらい見ていたいという気持ちがありました。・・・ただの像なのにすごく思いが入っていて、この像が一番修学旅行での思い出になりました。・・・像に込められた思いを考えたら日本の文化っておもしろいなと思いました。

考察：・先人の文化創造に向けた努力や工夫に対する理解を深めることができた。

- ・興福寺国宝館の阿修羅像をずっとたたくみ見つめているT生の姿は、日本文化の美しさや仏像に込めた先人の思いを想像し、文化を尊重する態度を高めていったと考える。

いのちの学習中間まとめ 7月

ねらい：これまでの学習をふり返り、「いのちを学ぶ旅」において今自分はどこにいて、どんな生き方をしていくのか考えることができる。

(生徒の中間まとめより)

題名【自分のいのちを輝かすためにできること】

常に色々なことに真剣に取り組んでいき、自分のためになることをたくさん吸収していくことだと思う。たくさんのことに挑戦して、自分を磨いてどんな苦しいことも成し遂げるときや成し遂げようと努力しているときが自分の「いのち」が最高に輝いているときだと思うので、**生半可な気持ちで物事に取り組まず、真剣な気持ちで物事に取り組んだり目標に向かって努力したりすることが自分の「いのち」を輝かすことになると思う。**・・・公共の場において人として恥ずかしくない行動をとり、人の迷惑にならないようにし、常識的なことができる人になるのも自分の「いのち」を輝かすことにつながると思う。・・・

(生徒の中間まとめより)

題名【いのち輝く学校をつくるためにできること、すべきことは何か】

今までたくさんの命の学習を通して、命の大切さや、命が輝くことは何なのかなどいろんなことを学んできました。これから命が輝く学校をつくるために、今の自分にどんなことができるのか文にして残したいと思います。・・・生徒会スローガンを「恒星」という命輝くものにしました。**スローガンの達成=この学校が命輝くことだと思っています。輝かせるためには協力が必要だと思っています。**東北信巡りで行った松代大本営では、強制でやっていた人が多くて穴掘りは大変だったと思うけど、穴を掘っていた人たちはきっと協力してきたからあそこまで長いものを掘って命を輝かしたと思います。・・・無言館にある絵を描いていた人たちは絵を描くということに熱意を持って必死になって夢中になってやっていたと思います。**一人一人がひとつの活動に熱意を持って一心不乱にやれば、必ずその人の命が輝くと思います。全体の命が輝くということは、一人一人の活躍あってこそ、よりいっそう光を増すと思います。**自分は生徒会長として・・・

考察：これまでのいのちの学びを総括し、自分がどう輝くか、仲間や学校をどう輝かせるかについて、自分の言葉で自分の意思を伝えることができた。(表現力の高まり)

今後の学習の方向

《桑華祭学年三智発表》

これまでの学習の足どりをまとめ、「いのちを学ぶ旅」において今、自分たちはどこにいて、どんな生き方をしていくのか発表する。

《進路実現に向けて》

いのちの学習から得た生き方・考え方を表現・発信する力の育成（面接、小論文）

《自分史作成》

義務教育を終えるにあたって、これまでのいのちの学びから何を心得、これからの自分に何をどう生かしていくかをまとめる。

《卒業式》

「私のこれからの生き方」と題し、生きる指標を表明する。